「子供が学ぶ」 My　授業づくり　シート
～拡散と収束のある学び　　須田小学校　中野　和美

◆「子供が学ぶ姿」

子供の「よく分からない」を「はっきりさせたい」に高まることで、子供は、友達の考えを付け加えたり、新たな考えを思い付いたりすることで、考えをより深めていきます。

算数学習編

◆教師の役割～日常的な４つの役割

次の４つのことを中心に、授業づくりに取り組んでいます。

① 授業で考えること（学習課題）のしかけ
② 子供から様々な考えを引き出すしかけ
③ 様々な考えを整理するしかけ
④ 自分の学びをまとめるしかけ

学習課題のしかけ　？を感じる

◆子供が、学習のめあてをもつ

①学習する必然性をもつための資料を示す
　（グラフや表で視覚的に理解できるように）
②生活経験（既知）を引き出すと同時に、「わからなさ（未知）」を意識させる
③考える視点を絞る（考える場面・条件の限定）

拡散のしかけ

◆子供から、様々な考えを引き出す

「土台となる考え方」を確認する

① 学習課題を解決する「土台となる考え方」を、例をあげて教える

グループ対話・ワークシート活用

② 自分の考えを友達と伝え合う場を作る

子供の「思い込み」を広げる

③ 対話スキル（理由・例示・一般化や、仮定（もし～）を問うことで、子供たちの考えの不足・不明の部分等をはっきりさせる

収束のしかけ

◆子供の考えを、整理する視点を示す

グループの考えを交流する

① グループの考え（ワークシート等）をキーワードで短い言葉で置き換えさせる

キーワードで整理する

②子供が考えたことを簡単なキーワードで整理する

まとめのしかけ　型でまとめる

◆子供が、学習課題についてまとめる

①学習の振り返りの書き出しの言葉を示す
②黒板に書いてあるキーワードを使う

「けがの予防」

■今日の学習課題のしかけ

① 学校で多く起きるけがを示し、本時で学ぶ４つのけがの手当を考える必然性をもつ（事前アンケート）
② ４つのけが（打撲・捻挫・火傷・切り傷）の手当の仕方で知っている情報を発表する

◎正しくけがの手当をするには、まず何をすればいいか　（※③「まず」で限定する）

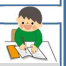
■今日の拡散のしかけ

①正しい手当の方法・理由を「すり傷」を例に、考え方の「手本」を示す
　（清潔・圧迫・冷却の仕方や理由を教える）
②「擦り傷」を土台に、「打撲・捻挫・火傷・鼻血」から１つ選び、３～４人グループで話し合う
③「もし手でなく足に」「もし服の上からお湯が」等、場面・条件を広げる問いで思考を広げる

■今日の収束のしかけ

①グループで考えたことを、全体に発表する
　（清潔・圧迫・冷却のどれを優先するか、その理由の２点に絞り黒板で整理確認する）
②けがによって優先することが違う理由を問う
　<優先する（圧迫・清潔・冷却）の理由の違い>
　圧迫（血を止めることを優先）…切り傷、鼻血
　清潔（ばいきんの侵入を止める）…すり傷
　冷却（きずの広がりを止める）…火傷（直接）打撲（関節）

■今日のまとめのしかけ



①「けがをした時に、まず大切なことは、清潔・圧迫・冷却の３つです。例えば、切り傷なら、まず圧迫することが大切です。その際、血が出るのをおさえるため、けがをしたところを心臓より上にします。足にけがをした時には～」

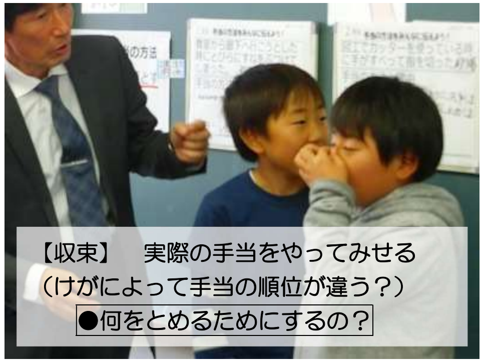
【導入】
学校では、どんなけがが起きているのかな

【拡散】　正しい手当の手本を示す。
（血管模型で、圧迫の目的を説明）

【拡散】　グループで交流　※机間指導
「もし～」で、子供の思考を広げる

【拡散】　グループで交流　※机間指導
「もし～」で、子供の思考を広げる

【収束】　グループの発表を聞く
（手当の優先順位と理由の２点に絞る）



【収束】　実際の手当をやってみせる
（けがによって手当の順位が違う？）
●何をとめるためにするの？

【まとめ】　学習のふりかえりをする
書き出しの言葉やプリントでまとめる